

は し が き

本報告書は、メディア教育開発センターの研究プロジェクト「メディア教材のプロトタイプに関する研究開発」での、平成9年度から平成12年度に至る4年間にわたる諸活動にかかわる論稿をまとめたものである。

当プロジェクトは、これからの高等教育に必要とされる、各種メディアを効果的に利用した次世代型メディア教材にかかわる研究開発を目的とするものである。この分野での研究項目は、効果的なメディア教材の開発・利用・評価のための基礎的研究、その研究での知見を踏まえた、メディア教材のプロトタイプの研究開発、さらには、その成果をもとにメディア教材開発事業との連携で進められるメディア教材の実用化研究と、多岐にわたっている。また、その研究内容も、教師教育、情報教育、外国語教育、日本語教育、看護教育…など多種多様であり、取り上げたメディアも、ビデオ、CD-ROM、DVD-Video、DVD-ROM…等と多彩である。従って、本報告書に寄せられた論稿も、活力に溢れた研究開発の、多様な展開を反映して、実に、多角的な展開を見せている。

まず、①の論考では、当プロジェクトの4年間にわたる研究開発の軌跡を総括した。ここには、当プロジェクトの目的と成果とが、詳しいデータとともに述べられており、その活動の全貌が把握出来る。②～⑨は、当プロジェクトの研究開発の内容やその成果を、各テーマ毎に詳述した論稿である。②、④、⑦は、「学校教育とカウンセリング」という主題のもとに研究開発した教師教育教材のプロトタイプに関する論稿で、ここには、目下、教育界で緊急の課題とされる“心の教育”に資する、効果的な教材の開発を目指して行われた、ビデオ教材やDVDビデオ教材の制作過程や、評価調査の結果が述べられている。また、③、⑤、⑧、⑨は、それぞれ、DVDを活用した次世代パッケージ型教材プロトタイプ、情報リテラシー教材、「日本語教育の情報化」に関する教師教育カリキュラム教材、Webコンテンツに関する教材…等の研究開発に関する論稿で、教師教育、情報教育、日本語教育、学部教育…等に関わるメディア教材の現状や、より効果的な教材を目指した、プロトタイプの開発過程を知ることが出来る。また、⑥は、高等教育でのメディア教材の利用状況とニーズ調査の結果をまとめた論稿である。

⑨～⑫は、当プロジェクトの研究開発の主題に、直接関わるものではないが、今後のメディア教材の研究開発には欠かせない、貴重な研究についての論稿である。Webコンテンツに関する教材試案や評価的認識に関する調査、遠隔カウンセリング共同学習支援システムの開発、大学分科系向けプログラミング教育…等についての考察は、メディア教材の大学での現状を分析し、さらに将来への展望を切り開く内容となっている。

本プロジェクトは、平成12年度をもって4年間の研究開発を終了した。しかし、メディア教

材に関する研究開発は、今後も、メディア教育開発センターの諸活動の中核的な位置を占めていくことになるだろう。本報告書が、明日のセンターの研究開発や事業活動に、また、広く高等教育におけるマルチメディアの利用促進に、少しでも役立つこととなれば幸いである。

平成13年3月

プロジェクト主査・福井康雄